※ ホームページ等で公表します。（様式１）
立教ＳＦＲ－プ共同－報告

立教大学学術推進特別重点資金（立教ＳＦＲ）
プロジェクト研究（共同プロジェクト研究）

２０１６年度研究【経過・成果】報告書

	所属部局･職	氏　名
研究代表者	文学部・准教授	小澤　実　印
研究課題	グローバルヒストリーのなかの近代歴史学	
研究組織（研究代表者・研究分担者）2017年3月現在	所属研究機関・部局・職	氏　名
	立教大学・文学部・教授	石井規衛
	立教大学・文学部・教授	奈須恵子
	立教大学・文学部・准教授	佐藤雄基
	学習院女子大学・文化交流学部・准教授	工藤晶人
	慶應義塾大学・経済学部・准教授	松沢裕作
研究期間	２０１４年度　～　２０１６年度	

研究経費※	２０１４　年度		２０１５　年度		２０１６　年度		総計	
(上段：支出金額)	3,000.000	円	1,799,943	円	1,197,630	円	5,997,573	円
(下段：採択金額)	3,000.000		1,800,000		1,200,000		6,000,000	

※1円単位で記入

研究の概要（200～300字で記入、図･グラフ等は使用しないこと。）

本研究は、近代日本における歴史家が、具体的にどのような西洋学の方法論や文献を下敷きとして、彼ら自身の研究を構築したのかを再構成し、近代日本における学術知識の流入ならびに日本の文脈におけるその解釈プロセスを明らかとする、史学史（歴史学の歴史）的試みである。その試みは、従来の史学史のように、日本における歴史思想という狭い意味での日本思想史という枠に閉じこもるものではなく、検討成果を世界の歴史学の潮流とその背景にある近代世界システムのなかに置き直すことによって、史学史のグローバルヒストリーを目指すものである。研究組織各位が個人のテーマを進めるとともに、定期的に開催される研究会・講演会・シンポジウムに参加し、討議を行うことで、所定の目的を達成することを期待している。

キーワード（研究内容をよく表しているものを３項目以内で記入。）

〔 史学史 〕〔 グローバルヒストリー 〕〔 近代日本 〕

研究【経過・成果】の概要（図･グラフ等は使用しないこと。）

本研究では、具体的に（１）近代日本の歴史家に対する西洋学知の影響、（２）歴史概念の比較史的研究、そして（１）と（２）を踏まえた上での（３）立教大学における歴史学の展開に焦点を絞り、近代日本における史学史の歩みを明らかにすることを申請書に記した。とりわけ本年度は、（１）と（２）の史資料に即した具体的論点を明示化するために、研究代表者ならびに共同研究者が個々に文献調査と内外の出張を行うことで論集に向けた研究を進めるとともに、研究会を組織し、（い）読書会、（ろ）研究会、（は）公開講演、（に）公開シンポジウム（共催・後援含む）を開催した。順次説明する。

（い）読書会（立教大学にて不定期開催）
佐藤を中心に、アメリカにおける日本史学史研究である Jeffrey Mass, *Antiquity and anachronism in Japanese history*（1992）の輪読・翻訳を進めた。

（ろ）研究会（立教大学で開催）
日本史学史に関する報告を２度おこなった。
第 10 回研究会（2016 年 7 月 6 日）
内田力（東京大学大学院）「近世縁切寺に対する解釈の変遷：アジール概念との関係を軸に」
第 11 回研究会（2017 年 1 月 20 日）
松沢裕作「明治期日本における「史料」概念の変遷」

（は）公開講演
2016 年 7 月 22 日［司会・翻訳：小澤実］
キャサリン・ホームズ（オックスフォード大学）「The Global Middle Ages. Questions and Themes」
2016 年 9 月 7 日
大阪大学 21 世紀懐徳堂　大阪大学 21 世紀懐徳堂 Rekishi カフェ
斎藤桂・小澤実「日本音楽はどこから来たのか　空想の起源説と音楽史」
2016 年 10 月 8 日［司会：小澤実・岡本充弘（東洋大学）］
グローバルヒストリーズ／歴史研究の新潮流＠立教大学池袋キャンパス
ドミニク・ザクセンマイヤー（ゲッティンゲン大学）「The Problems of Global History as a Global Professional Field」
コメント：張旭鵬　（中国社会科学院）＋秋田茂（大阪大学）
2016 年 11 月 24 日［司会：佐藤雄基］
文学部公開講演会＠立教大学池袋キャンパス
亀田俊和（京都大学）「南北朝時代研究の魅力」

（に）公開シンポジウム
2016 年 5 月 21 日＠慶應義塾大学三田キャンパス
第６６回日本西洋史学会大会シンポジウム３：グローバリゼーションのなかで歴史を書くこと――近代歴史学思想へのトランスナショナル・アプローチ――［司会：西山暁義（共立女子大学）］
趣旨説明：小澤実（立教大学）
報告１：藤波伸嘉（津田塾大学）「法の歴史、イスラームの歴史―イブラヒム・ハックにみる近代オスマンの歴史叙述」
報告２：小澤実「平泉澄と西洋学知―「皇国史観」以前の平泉中世論再考」
報告３：工藤晶人（学習院女子大学）「地中海史という構想―ブローデルとその後」
コメント：金澤周作（京都大学）＋西山暁義（共立女子大学）

研究【経過・成果】の概要　つづき

２０１６年12月10日@立教大学池袋キャンパス
日本学研究所公開シンポジウム「前近代東アジアにおける怪異と社会：テクスト・文化・自然環境」
小澤実「問題の所在」
報告１：高谷知佳（京都大学）「日本中世都市の秩序と怪異」
報告２：水口幹記（藤女子大学）「蘇民将来札考--井戸跡出土木簡を手がかりに--」
報告３：野崎充彦（大阪市立市立大学）「「怪異」の諸相--朝鮮前期を中心に--」
報告４：佐々木聡（日本学術振興会）「災異と禳災のポリティクス」
報告５：佐野愛子（国際日本文化研究センター）「ベトナム李仁宗代の怪異をめぐって」
コメント：北條勝貴（上智大学）「環境文化史から怪異を問う--伝播論／環境還元論の止揚へ--」

2017年３月10・11日@立教大学池袋キャンパス
文学部公開シンポジウム「史学科の比較史：草創期から1945年」
小澤実（立教大学文学部）「問題の所在」
報告１：佐藤雄基（立教大学文学部）：東京帝国大学
「東京帝国大学における史学と国史--史料編纂事業との関わりと卒業生進路から」
報告２：近藤成一（放送大学）：史料編纂所
「史料編纂所の歴史家たち」
報告３：堀和孝（慶應義塾大学福沢研究センター）：慶應義塾大学
「田中萃一郎と三田史学の展開」
報告４：小澤実（立教大学文学部）：立教大学
「小林秀雄とその時代　戦前・戦中の立教史学科・史学会・『史苑』」
報告５：上島享（京都大学大学院文学研究科）：京都帝国大学
「京都大学日本史研究の特色」
報告６：柳原敏昭（東北大学大学院文学研究科）：東北帝国大学
「創設期の東北大学日本史研究室―地域史・民俗学・学会―」
報告７：永島広紀（九州大学韓国研究センター）：京城帝国大学
「京城帝国大学における史学研究と史料編纂」
報告８：夏目琢史（一橋大学附属図書館）：東京商科大学（一橋大学）
「東京商科大学における歴史系ゼミナール― 川上多助・幸田成友を中心に ―」
報告９：廣木尚（早稲田大学大学史資料センター）：東京専門学校（早稲田大学）
「早稲田のなかの歴史学」
報告１０：藤田大誠（國學院大學人間開発学部）：皇典講究所・國學院大學
「近代国学と国史学―皇典講究所・國學院大學を軸として―」

以上は本年度の成果であるが、３年間の補助機関を通じた成果として、小澤実編『近代日本の偽史言説』（原稿提出済、勉誠出版、2017）、小澤実・長谷川修一編『高校世界史教科書記述・再考』（勁草書房、2018）、小澤実編『前近代ユーラシア東西の怪異と環境』（勉誠出版、2018）、小澤実・佐藤雄基編『グローバルヒストリーのなかの近代歴史学』（＊＊、2018）、小澤実・佐藤雄基編『史学科の比較史』（勉誠出版、2018）、また代表者・分担者の関わる翻訳として 19 世紀日本の歴史学と国家の関係を論じた基本書、中世グローバルヒストリーに関する翻訳論集、近代におけるルーン文字と宗教思想との関係を論じたテクストといった企画がすでに了承され、進行中である。

※　この（様式２）に記入の【経過・成果】の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（Ａ４縦型横書き１枚・自由様式）を添付すること。

研究発表（研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。）

①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）
②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）
③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）
④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

①
小澤実「公開シンポジウム１；近代日本の偽史言説：その生成・機能・受容」『立教大学日本学研究所年報』14/15（2016）；4-10
「公開シンポジウム２：史学史上における黒板勝美：日米における新たな研究動向」『立教大学日本学研究所年報』14/15（2016）
佐藤雄基「黒板勝美研究の可能性」13-14
リサ・ヨシカワ「近代日本の国家形成と歴史学：黒板勝美を通じて」15-25
廣木尚「日本近代史学史研究と黒板勝美の位置」26-32
松沢裕作「コメント」33-35
「特集：外国史家が読み解く『近代日本のヒストリオグラフィー』」『史苑』77-1（2016）：76-120
小澤実「序」
松沢裕作「『近代日本のヒストリオグラフィー』の意図と達成」
菊地重仁「近代日本における／にとってのヨーロッパ中世研究：ドイツ歴史学界との関わりから」83-95
小山哲「「史学史」の線を引き直す：ヒストリオグラフィーにおける「近代」をどう捉えるか」96-107
岸本美緒「近代東アジアの歴史叙述における「正史」」108-120
キャサリン・ホームズ（村田光司訳、小澤実解題）「変容するビザンツ？　グローバルヒストリーの時代におけるビザンツ研究の新潮流（600-1500）」『思想』2017年６号予定

②
熊野聰（小澤実解説）『ヴァイキングの歴史』（創元社、2017）：
小澤実「『北の農民ヴァイキング』から『ヴァイキングの歴史』へ」283-295
小澤実「文献解題」296-306
海老澤衷他編『朝河貫一と日欧中世史研究』（吉川弘文館、2017）
佐藤雄基「「朝河ペーパーズ」の基礎的研究　補遺―朝河研究の課題として―」30-39
佐藤雄基「『入来文書』の構想とその史学史上の位置―日欧の中世史研究からみて―」76-113
江島尚俊・三浦周・松野智章編『戦時日本の大学と宗教』（法蔵館、2017）
奈須恵子「敗戦前キリスト教系大学における教育組織・カリキュラムの変容について－高等学校高等科教員無試験検定指定をめぐって－」245-307
松澤裕作『自由民権運動』（岩波新書、2017）

③
上記研究の経過を参照。

④
上記研究の経過を参照。